

東日本 APM ニュース

ASSOCIATION OF PLASTICS MOLDERS, EAST JAPAN

第560号 2026. 6/29

一般社団法人 東日本プラスチック製品工業協会
東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル TEL 03(3541)4321
URL: <http://www.ejp.or.jp> FAX 03(3541)4324
発行人 笹岡 健治

目 次

東日本プラスチック製品工業協会
第58回 通常総会を開催 1

事務局レポート..... 4
ペロプスカイト太陽電池..... 7

東日本プラスチック製品工業協会 第58回通常総会を開催

令和8年5月14日（木）上野精養軒において当工業協会第58回通常総会を開催いたしました。当日は、正会員、賛助会員の皆様はじめご来賓、関連業界団体の皆様80名にご出席いただきました。

議案は以下の通りです。

- 第1号議案 令和7年度 事業報告承認の件
- 第2号議案 令和7年度 決算報告承認の件
- 第3号議案 令和8年度 事業計画（案）審議の件

- 第4号議案 令和8年度 収支予算（案）審議の件

- 第5号議案 役員改選の件

上記議案は、全て原案通り承認され、無事終了いたしました。

令和8年度の事業計画では、会員の皆様への情報発信に引き続き注力していきたいと考えています。重点事業として挙げた「第2回プラスチック成形加工研究会」を10月21日（水）東プラ健保会館で開催いたします。プラスチック成形加工の高度化、環境・リサイクル技術などのテーマを中心とした講演、情報共有を予定しています。詳細が決まりましたら、会員の皆様にご案内いたしますので、ぜひご参加ください。

こうした新しい取り組みを通じて、会員や関係団体などの皆様とも十分に意見交換・情報交換をしながらプラスチック産業の発展やプラスチックに携わる企業の地位向上に貢献してまいります。

総会後には山下副会長の司会で懇親会が開催されました。住田会長から以下のご挨拶がありました。

『本日はお忙しい中、関東経済産業局産業部長



総会の様子

の小澤様をはじめ、業界関連団体ならびに会員の皆様方にご出席いただき、総会が無事に開催できましたこと、心より御礼申し上げます。

さて、もうご存じの通り現在、アメリカとイランの軍事的対立を背景に、ホルムズ海峡の閉鎖リスクが高まり、ナフサを起点とする各種プラスチック原料の調達や価格にも影響が及んでおります。政府ならびに関係省庁におかれましては、産業界への影響を最小限に抑えるべく、原油・ナフサの代替調達や、タスクフォースによるボトルネックの解消などに取り組んでいただいております。

しかしながら、私たちプラスチック製品業界にとって、ナフサはまさに素材産業の出発点であります。その供給不安や価格高騰は、単なる原材料価格の上昇にとどまらず、企業運営に大きな影響を与えています。加えて、円安、物流費の上昇、人手不足、賃上げへの対応など、企業経営を取り巻く課題は複合的に重なっております。従来のように、こうしたコスト上昇を企業努力だけで吸収することは、もはや限界に近づいていると言わざるを得ません。品質を守り、雇用を守り、ものづくりを次世代へつなげていくためにも、原料の安定調達、適正な価格形成、そして取引先との相互理解がますます重要になっております。

一方で、こうした厳しい環境は、私たち業界が変化する大きな機会でもあります。特に、資源循環、リサイクル、カーボンニュートラルへの対応は、今年も引き続き大きなテーマです。プラスチック資源循環促進法の考え方にも示されているように、これからは製品設計、材料選定、使用後の回収・再利用までを含めた、ライフサイクル全体での取り組みが求められます。単に「プラスチックを減らす」という発想だけではなく、必要なところには高機能なプラスチックを適切に使い、長寿命化、軽量化、省エネルギー化、リサイクル性向上を進めることが、私たち業界の果たすべき役割であると考えております。

私も会長を仰せつかり、今期で3期目に入ります。産業界の発展と皆様の会社経営の一助となればとの思いから、協会活動を少しずつ広げ、研究会の開催や賛助会員様によるプレゼンテーションなどを行ってまいりました。今期もこうした時代の変化を的確に捉え、会員企業の皆様にとって役立つ情報提供、研究会活動、技術交流、技能検定の環境整備と開催、国や関連省庁との連携などに

も、これまで以上に力を入れてまいります。

プラスチック業界は、環境問題の中で厳しい目を向けられることもあります。しかし一方で、社会を支える多くの分野において、プラスチックは欠かすことのできない材料です。だからこそ私たちは、環境に配慮しながら、技術で課題を解決し、社会に必要とされる産業であり続けなければなりません。

本日の懇親会が、会員の皆様とともに今後の方向性を共有し、これからの協会活動をさらに前進させるための有意義な機会となることを願っております。結びになりますが、会員企業の皆様のみますのご発展と、本日ご出席の皆様のご健勝、そして当業界のさらなる発展を心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。』



住田会長挨拶

ご来賓からは、代表して関東経済産業局産業部長の小澤元樹様より、お祝いと中東情勢への対応状況等についてご挨拶をいただきました。

『只今、御紹介をいただきました経済産業省 関東経済産業局 産業部長の小

澤でございます。本日は、東日本プラスチック製品工業協会通常総会懇親会にお招きいただき、誠にありがとうございます。また、本日ご臨席の皆様方におかれましては、平素より、経済産業行政に多大なる御理解と御協力をいただきまして、重ねて御礼申し上げます。

はじめに、東日本プラスチック製品工業協会および会員企業の皆様におかれましては、持続可能な社会と経済成長の両立を図る循環経済への転換が求められる中、独自の技術力向上に大変なご努力を続けておられることに敬意を表します。プラスチックは国民生活を支える必要不可欠な製品・技術でありながら、我が国GXの実現の先導役となり得る業界であります。今後の日本の産業競争力の根幹であると認識をしており、我が国産業の発展に多大なる貢献をされておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、ご承知の通り、中東情勢の不安定化などを背景として、燃料価格や供給の先行きに対する

不透明感が続いており、製造現場におきましても、エネルギーコストや操業面への影響を懸念されている方も多いかと存じます。サプライチェーンの動向や今後の調達見通しは、特に地域経済を支える中小企業・小規模事業者様、その中でもプラスチック業界にとって、事業継続に関わる事項です。現下のイラン情勢を受け、関係行政機関が緊密に連携し、中東情勢に関する情報の収集・共有・提供を適切に行い、エネルギーの安定供給の確保等を図るため、「中東情勢に関する関係閣僚会議」を実施しており、本会議の下に、中東情勢に伴う重要物資の安定的な供給確保のための「タスクフォース」を設置、直近では4月30日には第6回会議が開催されています。

政府といたしましては、原油や石油製品について、日本全体として必要な量は確保できているものと認識しております。また、ナフサにつきましても、少なくとも日本全体の需要を満たす量は確保されております。一方で、足元では、分野や地域によって供給の偏りが見られるなど、流通の過程で目詰まりが生じているケースも確認されており、対策の一層強化を図っています。経済産業省では、「中東情勢関連対策ワンストップポータル」を立ち上げ、当局においても、中小企業・小規模事業者を支援するため、3月23日に特別相談窓口を設置し、資金繰りや経営に関する相談をいただける体制を整えております。また、4月2日には燃料油や石油由来の化学品・製品等の供給に関する情報提供の受け付けと関連情報を発信するポータルサイトも開設致しました。当局では、引き続き、情報提供窓口や特別相談窓口での情報収集を続けることに加え、関係業界・企業等へのヒアリングに努めるとともに、頂いた目詰まりに関する情報は、関係省庁と連携しながら、供給の偏りや

目詰まり箇所の特定を進め、ひとつひとつ確実に解消することで、国民の命と暮らし、そして経済活動へ影響が生じないよう対策を講じていく次第ですので、是非御相談ください。

また、こうした状況下でも、政府としては、適正な価格転嫁を後押しする環境整備と、生産性向上による対応を両輪として引き続き取り組んでいます。具体的には、本年1月に施行された、いわゆる「取適法」（とりてきほう）の着実な周知・運用を通じて、取引の適正化を進めております。また、それに加えまして、本年4月1日に各都道府県の「よろず支援拠点」内に「生産性向上支援センター」を開設しました。中小企業・小規模事業者等の生産性向上に向けて、現場訪問型の徹底した伴走支援を行い、皆さまの「稼ぐ力」の強化を全力でバックアップいたします。

最後に御紹介となりますが、昨年、大きな成功を収めた大阪・関西万博の熱気を受け継ぎ、来年3月には、神奈川県横浜市において「2027年国際園芸博覧会」が開催されます。園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化のみならず、地方創生の推進、グリーンインフラの実装、Society5.0の実現に向けた取組が行われます。ぜひ皆様の御参加をお待ちしております。

結びに、東日本プラスチック製品工業協会の益々のご発展と、本日御列席の皆様の御多幸と御健勝を祈念いたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。』

続いて、全日本プラスチック製品工業連合会会長の原直宏様の乾杯のご発声により祝宴が始まりました。

会場では、参加いただいた多くのご来賓、会員の皆様方による情報交換の輪が出来ました。原田副会長の中締めの挨拶でお開きとなりました。



来賓関東経済局・小澤部長



原全日本会長



中締め・原田副会長

事務局レポート

1. 新規会員のご紹介

新しく当工業協会に入会された企業様をご紹介します。

サービス等にご興味のある方は企業様に直接お問合わせいただくか、協会事務局にお問合せください。

(賛助会員)

■(株)青山財産ネットワークス 様 (東京都港区)

「財産・事業が次の世代へ確実に引き継がれていく社会をつくる」ことを使命に、全国の企業オーナー・資産家の皆様へ財産/事業承継・M&A等のご支援を行っております。会員の皆様が抱えられる後継者問題や株式承継などの課題に対し、専門家が連携し、実務に即した総合的なサポートを提供することで、会員の皆様及び業界の持続的な発展と円滑な次世代への承継の実現に貢献してまいります。よろしくお願い申し上げます。

■(株)Fact Base 様 (東京都港区)

図面を起点に、見積・製造・品質などの関連情報を一元管理できるクラウドサービス「ズメーン」を提供しています。プラスチック加工業においては、成形条件や金型情報、不具合履歴、検査成績書などの重要データが分散しやすく、属人化やトラブルの再発が課題となりがちです。当社はそれらの情報を図面に紐付け、動画も含めて蓄積・共有することで、不具合の削減とノウハウの見える化・技術継承を実現し、現場力の底上げと安定した品質・生産体制の構築に貢献してまいります。

■(株)デクシス 様 (千葉県船橋市)

当社は独自開発の画像処理技術と自動化技術が強みに、外観検査装置の開発から製造・販売までを一貫体制で手掛けるメーカーです。特許取得のオリジナルカメラや独自のアルゴリズムを保有し、傷や異物、バリなどの外観不良を高速・高精度に検出する自動化システムをワンストップでご提案します。本協会への入会を機に、会員の皆様が抱える成形品の検品や検査の自動化、全数検査による品質向上といった課題に寄り添い、生産効率化、製造DX化に貢献してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 第58回 通常総会 議事録

1. 日 時 令和8年5月14日(木)

16時～16時40分

2. 場 所 上野精養軒 3階 桜の間

3. 出席者 出席正会員 102名(うち委任状 69名) 正会員総数 164名

定刻、肥後副会長の司会により、一般社団法人東日本プラスチック製品工業協会 第58回通常総会の開会が宣言された。住田会長の挨拶に続いて、司会より、本総会出席会員の定足数は過半数を超えており、一般社団法人定款第18条の規定により本会が有効に成立している旨の報告がなされた。次に、定款第16条の規定により会長が本総会の議長の任に当たる旨を説明し、了承された後、住田会長が議長席に就いた。

4. 議事録署名人

議長より定款第20条の規程により、議事録には議長の記名押印のみのため、他の署名人の選出はない旨を

説明し、了承された。

5. 議 事

第1号議案 令和7年度事業報告承認の件

第2号議案 令和7年度決算報告承認の件

議長より、第1号、第2号議案は関連があることから一括して説明・審議のお願いをし、了承された。

上村副会長より、総会資料に基づいて、会員の状況ならびに会議の開催、個別事業及び支部会開催状況等の報告をし、さらに令和7年度の貸借対照表、財産目録、正味財産増減計算書等について説明をした。

続いて、監事欠席のため笹岡専務理事が以下のとおり監査意見を代読した。

「去る4月21日、当協会事務所において、令和7年度の事業報告、決算報告、計算書類、これら計算書類について監査を行いました。監査の結果、法令及び定款に従い、計算書類並びに財産目録等が適正に処理がなされている」旨。

議長より、第1号、2号議案の承認可否について、議場に諮ったところ異議なく、全会一致で承認された。

第3号議案 令和8年度事業計画(案)審議の件

第4号議案 令和8年度収支予算(案)審議の件

議長より、第3号、第4号議案は関連があることから一括して説明・審議のお願いをし、了承された後、上村副会長が以下の通り説明した。

令和8年度事業計画(案)については、「第2回プラスチック成形加工研究会」など、新しい取り組みを継続し、会員や関係団体などの皆様とも十分に意見交換・情報交換をしながらプラスチック産業の発展やプラスチックに携わる企業の地位向上に貢献したい。」旨の説明が行われた。

続いて、令和8年度収支予算案の事業総額、103,020,682円の内訳について総会資料に基づき一般会計の大科目毎に説明が行われた。また、科目の詳細と部会別会計(部会・委員会)については、ご一読願うことで了承を得た。

議長より、第3号、第4号議案の可否を議場に諮ったところ異議なく、原案どおり全会一致で承認された。

第5号議案 役員改選の件

議長より以下説明した。

本日の通常総会終了をもって任期満了となる現役員の改選について、本総会に上程するもの。下記の新役員候補者を発表し、その選任について議場に諮ったところ、異議なく全会一致で承認された。

理 事	橋本 盛介	不二プラスチック株式会社
々	大野 泰昭	株式会社石黒製作所
々	住田 嘉久	岐阜大学
々	野坂 晃司	大栄株式会社
々	村口 公浩	株式会社高福化学
々	秋野 勝彦	株式会社イガラシコーカ
々	嶋田 修二	浅間合成株式会社
々	石川 忠彦	天昇電気工業株式会社
々	山下 慎一郎	山下電気株式会社
々	伊藤 宏使	株式会社ヒロプラス
々	上村 俊彦	かみむら化学株式会社
々	曾我部 大	株式会社新上
々	原田 裕司	大塚産業株式会社
々	植田 好司	株式会社植田電器製作所
々	河合 清美	河合電子工業株式会社

々	千代田貢一	株式会社荒川樹脂
々	佐藤 昭	株式会社サトーゴーセー
々	滝口 裕	株式会社滝口製作所
々	福田 晴通	旭モーディング株式会社
々	関根 忠	株式会社ミクロ精工
々	早川 聖人	株式会社 日新化成
々	肥後 武展	株式会社リーデンス
々	矢後 史彦	株式会社フルプラ
々	平田 照雅	平田精工ジャパン株式会社
々	内山 三男	長野県プラスチック工業会
々	片野 真吾	群馬県プラスチック工業振興協会
々	大里 光男	茨城県プラスチック振興会
々	大山 剛	新潟県プラスチック工業振興会
々	田米開由章	栃木県プラスチック工業振興会
々	渡部 誠	福島県プラスチック工業会
々	笹岡 健治	一般社団法人東日本プラスチック製品工業協会
監 事	長島 勝敏	株式会社千葉工業所
々	谷 和雄	有限会社大里化工
々	野邊弘一郎	エンゼル産業株式会社

なお、選任された以下の出席理事は、席上その就任を承諾した。

橋本盛介、大野泰昭、住田嘉久、野坂晃司、村口公浩、嶋田修二、石川忠彦、山下慎一郎、伊藤宏使、上村俊彦、曾我部大、原田裕司、植田好司、河合清美、千代田貢一、佐藤昭、滝口裕、福田晴通、肥後武展、内山三男、大里光男、大山剛、田米開由章、笹岡健治、

議長から、別室において、新役員による新執行部を選出するための理事会を開催し、この場で報告する旨、宣された。

16時35分、理事会が終了し、司会の肥後副会長から、第426回理事会を開いたところ、以下の新執行部(三役)が決まった旨が報告された。

会 長：	住田 嘉久 氏
副会長：	上村 俊彦 氏
々	山下慎一郎 氏
々	原田 裕司 氏
々	肥後 武展 氏
専務理事：	笹岡 健治 氏

住田嘉久会長からは、新執行部として、微力ですが精一杯尽くしたく何卒よろしく御協力をお願いしたい旨の挨拶がなされた。

16時40分、議長は、以上をもって第58回の通常総会の議案が終了したことを宣した。

3. 第424回 理事会議事録

1. 日 時 令和 8 年 4 月23日 (木)
15時00分～ 15時50分
2. 場 所 東プラ健保会館 3階第一集會室
東京都台東区柳橋 1 丁目 1 番 4 号
3. 出席者
大野 泰昭 住田 嘉久 上村 俊彦
肥後 武展 山下慎一郎 原田 裕司
野坂 晃司 嶋田 修二 平塚 隆文
伊藤 宏使 曾我部 大 植田 好司
河合 清美 小菅恵美子 滝口 裕
福田 晴通 矢後 史彦 平田 照雅
内山 三男 長谷川矩之 笹岡 健治
以上出席理事21名 (理事総数32名)
野邊弘一郎 以上監事 1 名
4. 住田会長ご挨拶
本日はお忙しいところ第424回の理事会にお集まり

いただき有難うございます。

現在、経済産業省において、「自動車サプライチェーン取引適正化会議」が開催されており、4月20日の第2回会議の意見交換の場で、プラスチック業界の意見として以下を発言しました。

「プラスチック成形加工業では、金型、材料、射出成形機のどれが欠けても運営できない、作れない状態になっている。金型保管に関して、ある会社では、金型管理システムを自社で導入して運用している会社もある。導入費用は自社持ちで価格転嫁できず、非常に苦しまれているところもある。それ以上に、業界では、プラスチック材料が値上がりし調達に難しくなっている。樹脂メーカーは決定事項としてFAX1枚で値上げを要求してくる。OEM、ティア1、ティア2に価格交渉して根拠を示すように言われ、時間がかかる。そのギャップが資金面に響き非常に厳しくなる。その結果、どうしても金型保管が後回しになりがち。金型保管も非常に重要な事項であるが、目先の樹脂価格の高騰、調達不足に会員企業は苦しんでいる。価格改善の申し入れについては、真摯に取り組んでいただきたい。」と発言したところ、経産省でも調達のボトルネックになっているところの解消に向けて、タスクフォースを立ち上げて対応しているとの情報を頂きました。このことから経産省へ会員企業からの情報を提供し、本当に困っている調達に関しての解消に向けて働きかけをして頂くことになりました。情報は具体的な情報が必要になりますが、皆さまの情報提供をお待ちしております。今後もプラスチック業界の課題解決のために発言していきたいと考えています。資料等は経済産業省のホームページに掲載されていますので、ご参照いただければと思います。

最後になりますが、本日も円滑な進行をお願いしまして、挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

5. 専務理事より定数の報告

事務局より理事数32名のうち出席理事は21名であり、定款第33条の規程により過半数の理事の出席があり、本理事会が有効に成立している旨の報告がなされた。

6. 議長選出

定款第30条の規程により会長が議長に選出された。

7. 議事録署名人

議長は、定款第34条により、同人と出席の野邊監事に記名捺印をお願いし、了承された。

8. 議 事

議題1. 経過報告 (前回理事会以降の主要行事)

- (1) 役員会等の開催
3月26日 第423回理事会 東プラ健保会館
- (2) 部会・委員会の開催
①能力開発推進委員会
4月9、10日
新入社員教育講座 (学科コース) 板橋校
4月11、12日
新入社員教育講座 (実技コース) 板橋校
4月18日
新入社員教育講座 (計測コース) 板橋校
②青年経営研究会 (JPO) 【該当なし】
③ APM 会
4月15日 第197回例会 久能カントリー倶楽部
- (3) 支部会等の開催
4月9日 都心支部会 赤坂離宮 銀座店
4月3日 第2回新入社員基礎研修 東プラ健保会館

- (4) 全日本プラ連合会
3月27日 中央職業能力開発協会 AP 日本橋
第76回理事会
3月30日 事務局会議 西プラ事務所会議室
4月16日 第208回理事会

新大阪ワシントンホテルプラザ
以上議題1について諮ったところ特に異議なく了承された。

議題2. 会員の入会・退会承認の件

(1) 入会の部				
賛助会員 1社				
会社名 (株)Fact Base				
所在地 東京都港区台場2-3-1				
会員代表者 海老原 豪				
業 種 図面管理システムの開発・販売				
(2) 退会の部 なし				
(3) 会員の増減				
	正会員	賛助会員	計	団体会員
前 回	157社	70社	227社	7団体
増 加	0社	1社	1社	0
減 少	0社	0社	0社	0
現 在	157社	71社	228社	7団体

以上議題2について諮ったところ特に異議なく了承された。

議題3. 令和7年度事業報告、決算報告及び役員改選の件

以上議題3について諮ったところ特に異議なく了承された。

【報告事項】

- ①2026年1～3月期会員景況感調査報告
②今後の理事会日程について
③中東情勢による供給の偏りや流通の目詰まりを解消するための情報提供依頼について
④省力化ナビについて

4. 第425回 理事会議事録

1. 日 時 令和8年5月14日(木)
15時00分～15時40分
2. 場 所 上野精養軒 3階「菊の間」
東京都台東区上野公園4番58号

3. 出席者

大野 泰昭	住田 嘉久	上村 俊彦
肥後 武展	山下 慎一郎	原田 裕司
橋本 盛介	野坂 晃司	村口 公浩
嶋田 修二	石川 忠彦	平塚 隆文
伊藤 宏使	曾我部 大	植田 好司
河合 清美	小菅恵美子	佐藤 昭
滝口 裕	福田 晴通	内山 三男
大里 光男	大山 剛	笹岡 健治

以上出席理事24名(理事総数32名)

田米開由章 以上オブザーバー 1名(栃木県プラスチック工業振興会)

4. 住田会長ご挨拶

本日はお忙しいところ第425回理事会にお集まりいただき有難うございます。

本日は、この後会員の皆様が集まっての総会と懇親会になります。長丁場となりますが、本日も円滑な進行をお願いしまして簡単ですが、ご挨拶に代えさせていただきます。

5. 専務理事より定数の報告

事務局より理事数32名のうち出席理事は24名であり、定款第33条の規程により過半数の理事の出席があ

り、本理事会が有効に成立している旨の報告がなされた。

6. 議長選出

定款第30条の規程により会長が議長に選出された。

7. 議事録署名人

議長は、定款第34条により、同人が記名捺印する旨を説明し、了承された。

8. 議 事

議題1. 経過報告(前回理事会以降の主要行事)

(1) 役員会等の開催

4月23日 役員選衡委員会、第424回理事会
東プラ健保会館

(2) 部会・委員会の開催

①技能士会
5月16日 委員会・総会 板橋校

②製品技術部会
5月8日 第18回通常総会 東プラ健保会館

(3) 全日本プラ連合会

5月11日～ JAIM 理事打合せ(オンライン参加)

以上議題1について諮ったところ特に異議なく了承された。

議題2. 会員の入会・退会状況

(1) 入会の部

賛助会員 1社
会社名 (株)デクシス
所在地 千葉県船橋市本町2-1-34
会員代表者 木下裕敬(きのした やすのり)
業 種 外観検査装置・画像処理装置の開発、製造、販売

(2) 退会の部 なし

(3) 会員の増減

	正会員	賛助会員	計	団体会員
前 回	157社	71社	228社	7団体
増 加	0社	1社	1社	0
減 少	0社	0社	0社	0
現 在	157社	72社	229社	7団体

以上議題2について諮ったところ特に異議なく了承された。

議題3. 第58回通常総会開催の件

(1) 出席状況, (2) 役割分担・スケジュールについて

以上議題3について諮ったところ特に異議なく了承された。

議題4. 選衡委員会の名称変更等について

選考委員会への名称変更及び役員候補者選考規程の改正

以上議題4について諮ったところ特に異議なく了承された。

議題5. 第427回理事会・納涼会 開催の件

日 時: 令和8年7月16日(木) 17:00～19:20

17:00～17:45 第427回理事会

17:50～19:20 納涼会(退任理事ご招待・感謝状贈呈)

場 所: 日比谷パレス(東京都千代田区日比谷公園1-6)

以上議題5について諮ったところ特に異議なく了承された。

【報告事項】

- ①「オーダーメイド型人材育成支援事業」について
②「素材材産業取引ガイドライン」
③TDB 景気動向調査(2026年4月)

ペロブスカイト太陽電池

ペロブスカイト太陽電池とは、2009年に桐蔭横浜大学の宮坂力特任教授によって発明された、「日本発」の次世代型太陽電池である。

従来の主流であるシリコン系太陽電池の「重い・硬い」という弱点を克服し、脱炭素社会の切り札として世界中で開発競争が加速している。

■名称由来の3ステップ

1. 発見：1839年にロシアのウラル山脈で新しい鉱物が見つかる。
2. 命名：発見者が、当時の高名な鉱物学者だったペロフスキー伯爵に敬意を表して「ペロブスカイト」と命名。
3. 現在：その鉱物が持っていた「サイコロのような特殊な結晶構造」を指す言葉になり、同じ構造の材料を使う太陽電池の名前に受け継がれた。

■主な3つのメリット

1. 設置場所が大幅に広がる
フィルム状にできるため、これまで重量制限で諦めていた工場の屋根や、高層ビルの垂直な壁面、車のルーフなどにも貼り付け可能である
2. エネルギーの「完全国産化」に貢献する
主原料であるヨウ素は、日本が世界第2位の産出量を誇る数少ない国内資源であり、海外に依存しない強靱なサプライチェーンが構築できる。
3. 製造コストを安くできるポテンシャルを有する
溶液を印刷するように塗るシンプルな工程で作れるため、量産化が進めばシリコン系よりもはるかに安価に製造できると期待されている。

■普及に向けた課題

1. 耐久性の向上
湿気や酸素、熱に弱く結晶が壊れやすい。現在は屋外使用を想定した約10年相当の封止技術などが開発されている。
2. 有害物質（鉛）の含有
発電層にわずかに含まれる鉛の漏出を防ぐ技術や、鉛の代わりに「スズ」を使う鉛フリー化の研究が進められている。
3. 大面積での均一な製造
面積を大きくすると塗りムラができやすく、性能を均一にする量産技術の確立が必要。

■発電効率（変換効率）の現状

・単一（シングル）型

研究室レベルの小面積（1cm²以下）では最高効率22.6%を記録しており、シリコン系とほぼ同等、ただし実用サイズ（モジュール）に大型化すると塗りムラなどが原因で効率が落ちる。

・タンデム（積層）型

シリコン系太陽電池の上にペロブスカイトを重ね異なる波長の光を同時に吸収する「タンデム型」の開発が世界中で激化している。中国のLONGi Solarが世界最高記録となる34.85%を達成するなど、シリコン単体の理論的限界（約29%）を大きく超える

成果が相次いでいる

■海外の取り組み

1. 中国：国を挙げた「メガ量産」と市場の独占へ
従来のシリコン太陽電池で世界シェアの約8割を握る中国は、ペロブスカイトの分野でも圧倒的な製造キャパシティで世界をリードし始めている。
2. 欧州・アメリカ：「タンデム型」による超高効率化
欧米では、従来のシリコン太陽電池の上にペロブスカイトを重ねる「タンデム型」の商業化で、すでに日本の一歩先を行っている。
オックスフォード大学発のベンチャー企業は、ドイツの工場でタンデム型パネルの商業量産を開始している。すでに変換効率24.5%（理論記録は28.6%）の製品を、アメリカの電力会社などへ世界に先駆けて商業出荷し始めている。
欧州では「既存のシリコンパネルの製造ラインを少し改造してペロブスカイトを重ねる」アプローチが主流。これにより、シリコンの限界効率（約29%）を超える製品を定着させようとしている。

■日本の取り組み

日本政府は新設した「GX経済移行債（国債）」を財源に、ペロブスカイト太陽電池を「国内で完全に量産・自給できる体制」を作るため、「GXサプライチェーン構築支援事業」（令和6年度単年で548億円、国庫債務負担を含め総額4,212億円の大規模）を実行している。その狙いは、部材の調達から完成品の製造までを100%日本国内で完結させること。

国内メーカーが、ギガワット（GW）級の巨大な商用量産工場を建設する際の設備投資費を直接補助する。これにより、2027年頃までに国内での安定供給体制を確立させる計画である。

また、経済産業省・国土交通省・環境省は、「ペロブスカイト太陽電池の社会実装モデルの創出に向けた導入支援事業」（令和8年度予算案：70億円）をスタートさせている。

さらに、日本が持つ高い耐久性評価技術（産総研など）をもとに、国際標準化機構（ISO）や国際電気標準会議（IEC）に対して、「日本の技術に有利な国際規格」を提案・策定するプロジェクトを資金面から全面的にバックアップしている。

■発電コストの目標：「14円/kWh以下」の実現

従来のシリコン系太陽電池（住宅用）と同等レベルまで製造・発電コストを落とすことを技術的な必須目標としている。

シリコン系よりもさらに安い電気を作れる状態を目指す。海外市場をうまく取り込むことができれば、将来的に「10円/kWh」の水準も視野に入れている。

■市場規模

調査会社の富士経済の予測によると、ペロブスカイト太陽電池の2040年度の世界市場規模は約4兆円に達すると試算されている。これは2024年度比で約67倍という異次元の急成長予測である。

出典：2025.12.18. 最終更新日 2026.5.18

ユニバーサルエコロジー社
ペロブスカイト太陽電池 等

（案山子）



自社工場で磨いたノウハウで 製造DXを実現



ムラテックの生産管理システム

成形工場の基幹業務をWebシステムに集約
成形業のすべてを一元管理して業務改革を推進

成形業統合生産管理システム

GMICS[®]

成形に最適な
マスタ

多段階
部品構成
管理

MRP/製番
ハイブリッド
方式

EDIデータ
取込み

内外多工程
管理

多拠点
在庫管理

ロット
トレース

資材管理
システム

成形工場にひそむムダ・ムラを「見える化」し
最適な成形環境を構築

成形工場現場管理システム

MICS7

最適な
計画立案

リアル
タイム
稼働監視

成形機
メーカー
不問

実績
データ
ベース化

日々更新
在庫管理

金型
メンテナンス

ムラテックは、西日本プラスチック製品工業協会および近畿経済産業局と協同で、成形機のデータフォーマットを共通化しデータを統合するシステム「Middleware(ミドルウェア)」を開発しました。「Middleware」と弊社製品とのデータ連携強化の取組みを通じて、プラスチック成形業におけるIoT導入推進に取り組んでまいります。

村田機械株式会社
ムラテックフロンティア株式会社

<https://www.muratec.jp/fs/>

ファクトリーソリューション営業部

- 東日本支店 / 埼玉県さいたま市大宮区宮町4丁目85-1 〒330-0802
TEL 048(649)6139 FAX 048(647)9446
- 中部支店 / 愛知県犬山市橋爪中島2 〒484-8502
TEL 0568(63)2311 FAX 0568(63)5779
- 西日本支店 / 京都市伏見区竹田向代町136 〒612-8686
TEL 075(672)8257 FAX 075(672)8390